云/鬼　呼　生　－たま　〝　よび　〝　いく－　　DJ KRUSH　志人

「 曇(どん)より澱(よど)んだ心の大空　ぼんやり眺めて感(かま)けて怠(なま)けて
沃雑黎(うんざり)踏ん反り返って分捕(ぶんど)る鈍(なまくら)に騙(だま)くらかされて堪(たま)るか
本当か真言(まこと)かどうかも判(わか)らん音頭におんど等踊らされてら
とんでもねぇ事しやがったな
御山(おんやま)トンネル掘ったの誰や！ 」

顔面半分隠した人間共
がっぷり四つ出来ず　炙り出されて
安全神話のドーランを塗って三途へ逃げども逃げども
誰も居らん　豆を放卵
好色ずくめの動植物園の檻の中に閉じ込められたか

「鬼は内　福は外」

アクリル板越し蘭菌根クローン
隔離されたアフリカゾウ
罪なき麻の花も組み換えの種も
売り買いされる筋合いはなく
国益の為に故郷を追われて目的知らずに此処に居るのは
シンドラー　リストラ　受験戦争に　す・べ・て　を捧げた　君と似ていた

殺戮されに生まれてきた　殺戮 し に 生まれてきた
血も涙もない　い・の・ち は此の世に一欠片も無いはずで
死を蔑ろに生き　生が死を背負わんのなら
地球も　つ　・　　氵　皮　　す
　　氵　聿　を　　し
　　氵 戻　流 す　　魚　おぉぉ
地　　揺　が　　血　氵　朝
　　る　し　　・　　を　滾
　を　　ら

弱肉強食ピラミッド世界で
生き抜く法則　忘れて冒涜
暴力シーンを沢山拡散
指先一つで落とした爆弾
より高く積み上げ賤(やす)く済ます い・の・ち の価格

　「*その指先一つで 風を詠むんだよ 人間さんよ*」

危篤　突　如　下　ル　通　達
免レ（間抜かれ）得ず　／　（スラッシュ！）　空　　白　の　朝
来るはず　が　狂ッた　夜に　堕つ　文末の　。
劈(つんざ)く　血で打つ　・　故　、　句点（黒点）に平伏す　、
僕 のイ(ニンベン)を木偏(キヘン)に帰依(消え)し　-樸-
欲望(暴)力の濁（　゛　）　斫(はつ)る　彫刻刀を研ぐ
朴を訥々(とつとつ)と　卜(ぼく)す　盲(めし)いり　捻(ね)じ切るよう　彫る
出　発(でっぱつ)の刻　翔　べ　千　羽　鶴
吽(うん)　、

「 何時迄待っても死神は来ないアスファルトの上の君達は
生きながらにして死んじまったんだろうか？
足跡が付かないこの道は　位牌(いはい)の山と碑(いしぶみ)の上を削って出来た傷
今日は残りの人生のはじまり　さぁ　生き方用意 」

^\
小さい私　霊(たま)　渡し
痛み引いたら　鹿　鹿　角　何　本
銀河の高原　大川越え
鬼らと大縄跳び　独楽(コマ)回す

何時迄待っても死神は来ないアスファルトの上の君達は
生きながらにして死んじまったんだろうか？
足跡が付かないこの道は　位牌(いはい)の山と碑(いしぶみ)の上を削って出来た傷
今日は残りの人生のはじまり　さぁ　生き方用意
言っただろ　人の噂は七十五日もなく　三日だぞ
何にも気にするな　夢だけ見て歩こう
この焼け野原の上を　祖父様　祖母様と
手を繋いで　遺影を懐いて
戻ろう　踊ろう　鼓動
ちきゅうの　を と

透明な生命　亡霊の号令
明滅する恒星の光源は尾根を越え
今まさに消えかかる風前の灯火の元へ

轟け　この声よ　此ノ世ノ諸友へ

応答せい　音で踊れ　元へ戻れ
灯せ　挙れ　九重の炎へ

骨ひらうよう語り繋ぐ層
時計奴隷放免し　開け喉仏

云(うん)

ヤレー （遣 れ）

吸

〽
此の世も疾に終わりがけと
おい おい 泣いとる そこの魑魅(ちみ)
容易に死なすな ちょいと待て
恩に着ますわ本日は
死児の齢(よわい)も友と知る
朱鷺(トキ)の如き尊き日

詩で 迎え 撃て 船出
鬼と暮らせ くさめ （嚔） くらえ

機械 引 っ 叩 （パタ） いて ッ 痛い
ひ っ(筆)かき （書き） 傷が つかん 野(の)に
砂利 み 血 路 ち・ が いっぱいに 溢れ 出てって
手 の ひらに 直に 刻ゃむ 忘れ形見 施餓鬼 刺す青

ピカッ 一回 否✓ 二回 ひきしゃく
灼熱の火球 炸 裂
氵聿 な み だ が 攫 (さら) ッた ー サ ラ バ 、
氵皮 氵戻 然らば 去らば 曝 ー んば ら.・ .
半裂(ハンザキ) 合体 布草履
左右なし 御婆ぁの祈り
明日なろう(翌檜) 桧(火ノ木)

〽
ねぇ 鬼さん 此方(こちら)の方へ
目覚ませや こんにゃろーめ
天高々 藁束を打(ぶ)って
注連縄(しめなわ)を結い直せ エンヤラヤ

えぃ(鋭)人間 逃げたら襲うぞ
年柄年百 喧嘩は止めだ
虎の威を借る狼(オオカミ) 遣り切れん この紙切れ 綺麗に 噛みきれ

暗澹かつ惨憺たる結果の凄惨なる戦いを清算
疫病退散の 逆だ 逆
敵対の反対 勞い 抱き合い
一世一代 盛大に歓迎し 受け止めてやれ 心から ええかい？
愛は かなし 友一人想うこと なら
鬼コも お仲間 入れたってや！